

## 2023 年度学童保育指導員研修新任研修レポート

第 1 講義『学童保育とは-歴史と役割、学童保育指導員の倫理』

第 2 講義『健康・安全・衛生-1- -子どもの受け入れ、健康管理-』

第 3 講義『一日の仕事 -打ち合わせ・記録-』

第 4 講義『緊急時の対応 -日々の安全と緊急時の対応-』

第 5 講義『健康・安全・衛生-2- -衛生管理・食品管理等日々の衛生-』

第 6 講義『保護者との関係・地域関係機関との連携 -保育の役割を果たすために-』

【クラブ】（ なかよしクラブ ） 【名 前】（ 宮本喜代枝 ）

全 6 回の講義で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

新任研修を終えて

学童保育の場は、大人から子どもに遊びを与える場ではなく、子どもから自然に遊びへと繋がる様に促す事が大切であると気づきました。子どもが、学校から帰ってきた時の変化や様子の違いに気づけるようにしていきたい。いつもと違う態度や、何かサインが発信されている時もあるので、それを受け止められる様にしていきたいです。

子どもは、大人から愛されたい、自分だけを見て欲しいという行動もあります。時には嫌な思いをして、それを言葉に表す事が出来ずに、友達を攻撃するという行動で示す時もある。そのサインに気づき、話を聞いてあげられる保育をしていきたいです。

子どもは、些細な事で喧嘩になる事もあります。そんな時、私はついお互いに謝らせる事で解決してしまいがちでした。「ごめんね。」「いいよ。」と大人都合で言わせるような、叱るだけの指導であってはいけないと気づきました。「何があったの?」「今どういう気持ちなの?」と子どもに問いかけ、まずじっくりと気持ちを聞いてあげる事が大切で、個々の想いを引き出し、子ども同士で何が悪かったのかに気づかせて解決出来るような指導員でいたいです。

日々の保育の場では、「ヒヤリ、ハット」怪我や事故に繋がるような場面も多々あります。公園に向かう時一つでも、突然風に飛ばされた帽子に気を取られ、道路に飛び出す危険性もある。常に指導員は、車道側を歩いているか、子どもの予測出来ない行動に対処出来るように、指導員の配置も考えておくべきである。どこに危険が潜んでいるかを意見を出し合い対策を考え、危険を察知出来るように、指導員同士が話し合う時間を設ける必要性も感じました。

保護者が、子どもは学童に行っている事で安心して働けると思っている事が大切であり、子どもたちの出欠確認は何よりも重要です。子どもは親の会話を見聞きした事で、勝手に解釈する事もあるので、学童に行くはずの日に自分判断で自宅に帰ってしまう事もあります。保護者からの欠席連絡がなく、保護者との電話連絡が取れない時は、指導員が自宅へ出向き、通学路の確認、所在確認が取れるまで探すという事の必要性は、頭に入れておかなければいけない。

子どもは学年によっても行動力が違うので、子どもからの口伝えの言葉を安易に信じない事、必ず何かがあるかもしれないと危機感をもって対応する事を常に心がけて、日々の保育に携わっていきたいです。